

No 42	下関市立豊浦小学校
調査研究名	コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫
調査研究計画	本年度より新学習指導要領が完全実施される。この新学習指導要領において、各教科や各領域で知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力を養うことが大きな目標である。中でも言語活動の充実、コミュニケーション能力の育成に不可欠であり、本県の目指す目標「一人ひとりの夢の実現」のための「生きる力の育成」に大きく関わっている。 そこで、どのような言語活動が取り上げられているか、どのように言語活動の充実を図っていくかを追究していきたい。その上で、課題となるのは、コミュニケーションの基盤となる言語力（説明・記録・批評・論述・討論など）を話し合い活動等を通して、どのように伸ばしていくのかである。 本校では、これまで4年間、「コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫」という研究課題のもと、児童の発達段階に即して、話す活動や聞く活動を中心に、コミュニケーション能力に関する態度、技能、知識を系統的に育成してきた。 本年度は、国語科をはじめ、各教科において「言語活動の充実」を図ることを通して、研究主題に迫っていききたい。校内の研修においては、全員授業（一人一授業）を計画している。また、ブロック授業を年間2回実施し、2回目は、外部講師を招聘し、ワークショップ型の研修会を予定している。夏季休業中の研修も実施する予定である。 研修内容及び計画 (1) 学年研修・・・研修推進上の共通理解、学年研修の発表の場としての職員研修会 (2) 全員授業（一人一授業）・・・主題解明を目指しての授業公開 (3) ブロック（低・中・高学年別）授業・・・1回目・・・6/29 2回目・・・10/2 午後、研究協議会を行い、全体会において情報交換を行う。（外部講師招聘） (4) 夏期休業中の研修 (5) 特別な支援を要する児童理解と教育に関する研修 ・・・特別支援学級の授業公開、通級指導教室の理解・・・5/16 (6) 互見授業・・・授業を見せ合い、研修の日常化を図る。
授業研究・研修等の公開など研究成果の還元方法	
ブロック研修会等を行う際に、市内の各学校へ授業公開や研究協議会への参加について、案内を行う。また、研究成果については年度末に紀要として冊子にまとめる。	